

第4回戦略会議レポート 2019/11/15 十日町情報館



雪国観光圏の理念

『100年後も雪国であるために』

ひとつずつでは埋もれてしまう地域資源を発掘し、つなぎ合わせ、磨き上げることで世界に通用する価値を生み出す。

雪国観光圏のブランドコンセプト

『真白き世界に隠された知恵に出会う』

議題① 各WGから進捗報告

【雪国文化研究WG(細矢MG)】

- ・駅からハイキングをテーマに冊子の校正を進めている。
- ・ミニシンポジウムは2月27日又は28日。新潟大学澤村先生の講演「観光資源としての文化財」、パネルディスカッションは「総合文化財の観光資源」で澤村先生・井口代表・学芸員男女各1名、コーディネーターはフジノ氏。

【食文化WG(岩佐座長)】

- ・雪国A級グルメミーティング後、しんばし×宮野屋コラボイベントが12月10日に実現。日本で一番多く一人でそば(100%魚沼産蕎麦)を打つ店主と魚沼産在来種で蕎麦を育てる2人の店主が開催する「蕎麦が繋ぐ人と食の縁」。



- ・雪国A級グルメ資料完成。微調整の可能性もある。

【観光協会連携WG (大口事務局長代理)】

- ・情報共有のための情報整理(イベントカレンダー)では抽出範囲とタイミング、DropBoxを用いた共有ファイル、項目事項、タイトルなどをWGで話し合った。今月中に素案を作り来月、遅くても再来月からテスト運行する予定。

【女性コーディネーター研究会(細矢MG)】

- ・InstagramとFacebookで発信。第1週に特集を行い、12月はクリスマス・1月は雪見露天・2月はバレンタイン・3月は春が待ち遠しい特集。各自が撮影した写真もあげていく。
- ・フォトコンテストを開催。雪と旅冬号は美肌作り記事。
- ・勉強会では、秋山郷の2次交通・文化について学ぶ。
- ・現地視察は、秋山GO! えんdeカフェでスタンプラリーを活用した地域住民との交流企画について学んだ。

【ブランドWG(ブランドマネージャーフジノ氏)】

- ・魚沼市の百八灯にフォーカス(デザインを回覧し確認)。
- ・観光協会の企画ページ(2P→4Pに増量)ではHOME HOMEでの座談会とご当地体験プランを掲載。お互いの現地を見ることや体験することが勉強や刺激になるので他の地域に行くことも企画出来たら。

議題② 訪日外国人旅行者周遊促進事業費の遂行状況について

■全国観光圏共通マーケティング調査事業 夏調査終了し、冬調査へ。調査票配布するので協力を。

■全国観光圏推進協議会事業 清水哲夫先生のアドバイスのもと各観光圏の事例発表を行っている。12月には既存の観光地域づくりマネージャー育成研修。新規マネージャー研修は先日第1回目が終了。

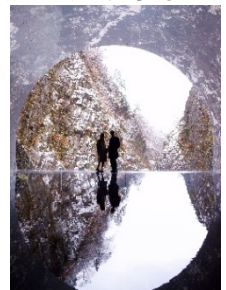
■UnDiscoverd Japan情報発信事業 次回シンポジウムは浜名湖。12月に詳細わかれば進捗報告予定。

■インバウンドコンテンツ商品造成事業 (①シンガポール向・②欧米向)フジノ氏

①は、販売促進、テストマーケティング。雪国観光舎に協力頂き販売促進を促し、現地旅行会社にセールスしていく。②はマーケティング調査。欧米を対象に見せ方、どんな人が反応するかをリサーチ。定性調査、定量調査をしながらどんな属性の人たちが雪国に関心を持ってもらえるのかを探る。調査に関して対象国をイギリスに絞るが観光圏のターゲットを絞るというわけではない。

■訪日外国人向け豪雪ストーリー体験プラン造成事業 松之山温泉郷 細矢MG

昨年は松之山と越後湯沢をバスで繋いだが今年は津南町の名所にも立ち寄りルートで体験もできるよう、運行ルートと時間調整を検討中。12月28日～3月、火水運行1日2便で合計4本。越後湯沢出発、清津峡・なじよん経由、長靴で遊べるスキー場松之山スキー場が最終目的地。



英語版ブランディングブック作成事業

・英語版ブランディングブック作成事業(滝沢印刷)

昨年ガストロノミー編で、今年は雪国文化編を作成中。インバウンド対応の為に作成したもので他の地域との違いを深く知ってもらい雪国のファンになってもらう。

コンテンツについては雪と旅、SCFの特集から雪国文化に翻訳して仕立て上げる。昨年は湯沢旅館組合とコラボで部屋置きや、県の国際推進課や観光協会にも販売しセールスにも役立てた。11月から翻訳、12月から編集を開始、3月末に完成予定。

トピックス 戦略会議と同日開催の勉強会 ～信越県境地域づくり交流会～

開催日：2019年11月15日(金) 雪国文化と地域づくり

第一部公開研究会はっコラボ

第二部基調講演&トークセッション 第三部情報交換会

モデレーター：井口代表理事/コメンテータDiscoverJapan統

括編集長高橋俊宏氏

パネルトーク十日町市博物館長

HOMEaway from

HOME Niigata井比代表

千原(株)和の風店番

繭の会代表千原氏



その他、ディスカッション

■英語版ブランディングブックのWEB化について予算化を。

・ブランディングブックは本もいいが、食や文化のあるこの地域が好きで来てくれる人を増やすには、WEB化したほうがよい。PDF化するだけでなく写真もキレイなので、文章と映像に落とし込むとみえてくれる人もいる。

・スマホ閲覧を考えないといけない。テキストや画像のWEBページを作る。

・大地の芸術祭ではWEBをリニューアルしWEBメディアとして地元のストーリーなどの記事が追加され展開される。ブランディングブックも雪国文化を発信する媒体としてPDFではなくアーカイブされたら継続性があり発信できると思う。

・WEBメンテナンス費用は持っているが新年度の負担金は観光圏ベース維持にしかあてられず、財源や事業建てを考える必要がある。

■フリーペーパー雪と旅(特集:百八灯)*冬号 12月6日発行予定

・雑誌や市町村の観光パンフではできない地域に埋もれた祭りを掲載するフリーペーパーとして非常によい企画。雪国文化の根底には風土に根付いたこういう祭りがあることを知ってもらえる。

・百八灯を選んだ理由は古い写真や祭りのプロセスがわかる写真がストック・公開されていた事と、魚沼市のプレゼンテーションに心を動かされた事。

・気軽に渡せる雪と旅の英語版があると良い。商談会でこうした取り組みを伝えたい。文化に造詣の深い外国人インフルエンサーに渡すと新展開も。

・百八灯では地元の人が露店を出し、酒や食べ物などを無料でふるまう。地元の祭としての大事な部分を残しつつショーの要素も作り、魅せる祭りにしていくのも一つの手かと思う。

・なるべく地域色を消さないで残すことが大事。海外の方を松代にお連れしたがイベントや観光地じゃないところに喜んだ。外国人は他に誰もいない、ザ・日本というスタイル。祭りに関しては、ショーの部分が増えると本来持つべき文化や価値が萎んでくるので今の価値をそのまま感じてくれる人に伝える方が良い。



■トレイル・棚田トレッキング



・信越トレイルは欧米の質の高い方を誘客されていると思うので棚田のトレッキングを信越トレイルに組み込めばよいのではないかと。いいやま駅でスタート、いいやま駅に帰るパターンが多いが、いいやまスタートで棚田、松代駅から越後湯沢に抜けて帰るなども考えられるので情報交換や案内ができればいい。

・信越トレイルと連携したい。松之山近くまで信越トレイルに行く。棚田トレッキングは1日で終わらせるのが不可能で、2泊3日が前提。たまきや、ちとせやゲストハウスなどと連携し宿泊しながら質の高いツアーを考えている。棚田に関する事なのでトレッキングだけではなく田植え・稲刈り・和紙イベント等農業体験と組み合わせていきたい。ずっと歩くことはせず3時間くらいを想定している。

*次回戦略会議は1月28日(火)湯沢町役場にて13時30分より開催。

連絡先：湯沢町役場産業観光部
新潟県南魚沼郡湯沢町大字神立300番地
TEL025-784-4850 FAX025-784-3582